

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人長岡市芸術文化振興財団	
施 設 名	長岡リリックホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	15,759	(千円)
	公 演 事 業	9,311 (千円)
	人 材 養 成 事 業	2,448 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	4,000 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	松田華音ピアノ・リサイタル	令和4年5月21日	出演／松田華音 曲目／スクリャービン：2つのマズルカ Op. 40、2つの詩曲 Op. 32、ほか	目標値	560
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	304
2	文学座公演「一銭陶貨～七億分の一の軌跡～」	令和4年6月11日	演出／松本祐子 出演／鶴澤秀行、中村彰男、高橋ひろし、平体まひろ、ほか	目標値	360
		長岡リリックホール シアター		実績値	230
3	クラシック・ギター DUO×DUO	令和4年6月18日	出演／莊村清志、福田進一、鈴木大介、大萩康司 曲目／ポンセ：間奏曲、武満徹／不良少年、ほか	目標値	560
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	441
4	小林美樹ヴァイオリン・リサイタル	令和4年7月10日	出演／小林美樹、小林有沙（ピアノ） 曲目／ブラームス／ヴァイオリン・ソナタ 全曲演奏	目標値	560
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	233
5	東京フィルハーモニー交響楽団 長岡特別演奏会	令和4年9月18日	出演／アンドレア・バッティストーニ（指揮） 曲目／マーラー：交響曲第5番、ほか	目標値	1,057
		長岡市立劇場 大ホール		実績値	919
6	万作の会 狂言公演	令和4年9月21日	演目／小舞「海人」、入間川、泣尼 ※関連企画として「小学生対象狂言ワークショップ」を実施	目標値	400
		長岡リリックホール シアター		実績値	380
7	イタリアの思い出	令和5年3月18日	出演／アレッサンドロ・ヘヴェラリ（クラリネット）、ルドヴィカ・ラナ（チェロ）ほか	目標値	560
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	258
8	第20回 澤クワルテットコンサート	令和4年11月26日	出演／澤クワルテット、阪本奈津子（第2 ヴィオラ） 曲目／モーツァルト：弦楽四重奏曲 No. 3ほか	目標値	420
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	228
9	a la Collection シリーズ vol. 13「百日紅、午後四時 長岡公演	令和4年10月16日	作・演出／鈴木聡 出演／市毛良枝、陰山泰、福本伸一、朝倉伸二、瓜生和成、平体まひろほか	目標値	360
		長岡リリックホール シアター		実績値	379
10	第19回リリックホールコーラスフェスティバル	令和4年12月11日	出演／250人（15団体） ※小学生以上のメンバー3名以上で構成される団体	目標値	600
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	523
11	リリック・ジュニアフェスティバル 2022	令和4年12月18日	オーディションにより選出された小学生から高校生、長岡少年少女合唱団、ほか	目標値	400
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	413
12	入船亭扇辰 独演会	令和5年1月21日	出演／入船亭扇辰（長岡市出身） 演目／紋三郎稲荷、雪とん、ほか	目標値	368
		アオーレ長岡 交流ホールA		実績値	360
13	本條秀慈郎×LEO デュオ・リサイタル	令和5年3月4日	出演／LEO（箏）、本條秀慈郎（三味線） 曲目／藤倉大：Cutting Sky、坂本龍一：Andataほか	目標値	560
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	468

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	仲道郁代プロデュース 第4回「三善晃記念 響き合うピアノ」	令和5年2月4日～ 令和5年3月26日	対象／15歳～30歳(オーディションにより選抜) 講師／仲道郁代、高見秀太郎 内容／講座・ワークショップ、マスタークラス、演奏会	目標値	入場者数 ／250人・ 参加者数 ／20人
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	入場者数 ／212人・ 参加者数 ／18人
2	文学座 演劇活性化事業	令和4年7月13日～ 令和5年2月26日	舞台美術講師／乗峯雅寛 演劇WS講師／五戸真理枝、高橋ひろし、植田真介、永川友里、ほか	目標値	参加者数 ／330人
		長岡リリックホール 市内小学校		実績値	参加者数 ／275人
3	長岡少年少女合唱団育成事業	通年	週2回の定期練習の他、定期演奏会、新潟県少年少女合唱団合同演奏会の開催	目標値	入場者数 ／1,000人・参加者数 ／50人
		長岡リリックホール・ 第1スタジオほか		実績値	入場者数 ／756人・ 参加者数 ／31人
4	ジュニア・ミュージカル育成事業	通年	年間を通して、レベルアップのための指導や発表会を実施します。	目標値	参加者数 ／45人
		長岡リリックホール・ 第1スタジオほか		実績値	参加者数 ／31人
5	ジュニアストリングオーケストラ育成事業	通年	月2回の定期練習の他、成果発表公演及び当財団の他事業への出演など	目標値	入場者数 ／100人・ 参加者数 ／30人
		長岡リリックホール・ 第1スタジオほか		実績値	入場者数 ／73人・ 参加者数 ／37人
6	東京フィルハーモニー交響楽団 中学生楽器ワークショップ	令和4年9月17日	対象：中学校吹奏楽部員 楽器：フルート、オーボエ、クラリネット、バス、ファゴット、サクソフォン、ホルン、打楽器、ほか	目標値	参加者数 ／260人
		リリックホール 市内中学校		実績値	参加者数 ／188人
7	小山裕幾フルートワークショップ	令和5年1月14日	対象／中学生から高校生まで 講師／小山裕幾(フィンランド放送交響楽団首席フルート奏者)	目標値	参加者数 ／30人
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	参加者数 ／18人
8	1日限りの吹奏楽部 in 長岡	令和5年2月23日	対象／一般(吹奏楽経験者) 講師／高橋秀典(指揮者)、ほか 曲目／スーザ／士官候補生、ほか	目標値	参加者数 50人
		長岡リリックホール 全館		実績値	参加者数 51人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	リリック子ども音楽館 0歳からの東京フィルわくわくコンサート	令和4年7月31日	指揮/松本宗利人、 管弦楽/東京フィルハーモニー交響楽団 進行/野口綾子	目標値	入場者数 /600人
		長岡リリックホール コンサートホール		実績値	入場者数 /343人
2	東京フィルアウトリーチ コミュニティコンサート	令和4年5月24日～ 令和4年10月26日	出演/東京フィルハーモニー交響楽 団(弦楽八重奏) 曲目/エルガー/愛の挨拶、ほか	目標値	参加者数 /820人
		長岡市内公共施設等		実績値	参加者数 /1,640人
3	地元アーティスト 学校 アウトリーチ	令和4年5月26日～ 令和4年11月24日	プログラム/室内楽、声楽、 和楽器(箏)、打楽器(マリンバ)	目標値	参加者数 /1,200人
		市内小中学校		実績値	参加者数 /1,967人
4	0歳からのミニコンサ ート	令和5年2月16日	出演/五十嵐郊味(ソプラノ)、高橋 朝子(ピアノ)ほか 曲目/ミッキーマウス・マーチほか	目標値	入場者数 /100人
		長岡リリックホール・ 第1スタジオ		実績値	入場者数 /72人
5	リリックホワイエコンサ ート	令和4年10月4日～ 令和4年10月5日	出演/Masumi Yamamoto(ジャズ・ピ アノ)、デルゲルマー(馬頭琴奏者) 権藤真弓(ピアノ)	目標値	入場者数 /200人
		長岡リリックホール・ ホワイエ		実績値	入場者数 /150人

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>長岡リリックホールは、元芸術顧問・故 三善晃氏の提言「みんなのホール」をコンセプトに、地域に開かれた芸術文化の拠点施設であり、事業の中心に据えているのは、「まちづくりはひとづくり」という人材育成の大切さを説いた長岡藩大参事・小林虎三郎の「米百俵」の精神に基づく、人材育成事業としている。年間を通じて幅広い年齢層の市民に、様々な会場で市民と交流しながら芸術文化に触れる機会を提供した。さらに、合唱、ミュージカル、弦楽器の分野でジュニア育成事業を推進し、子供たちの情操・人材育成に力を入れて事業を組み立てた。</p> <p>演劇、音楽、伝統芸能など、偏ることのないよう事業計画を行い、鑑賞の機会や参加の機会を予定どおりに提供できた。</p> <p>（主な事業の組み立て）</p> <p>○市民協働事業の推進</p> <p>地元文化団体や指導者等と連携し、普段、芸術文化に携わる機会が少ないと思われる世代に、学校アウトリーチやホワイエコンサートなど、親しみやすい形式を工夫し、芸術文化に触れる機会を提供した。</p> <p>○ジュニア育成事業の推進</p> <p>未来を担うジュニア世代の情操と人材育成のために、芸術文化に親しむ場と技術向上の機会を提供した。また、プロのアーティストと共演する機会を提供し、出演者等との交流や仲間づくりを推進した。</p> <p>○幅広い鑑賞事業</p> <p>乳幼児から高齢者、障害を持った人や外国人等、さまざまな人がストレスなく芸術文化を楽しみながら鑑賞できるよう、様々なジャンルの公演事業を行った。また、青少年招待事業により、家庭環境や経済的にホールへ来ることができない人を支援した。</p> <p>○地域拠点事業の活用</p> <p>東京フィルハーモニー交響楽団や劇団文学座のネットワークやノウハウを活用し、地域に根付いた訪問公演やワークショップを開催した。コロナ禍で外出を控えていた高齢者にとっては、身近な施設で芸術鑑賞ができると大変喜ばれた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>長岡地域は自然災害の災禍を不撓（ふとう）不屈の精神で乗り越え、復興を成し遂げてきました。その原動力は「まちづくりはひとづくり」という人材育成の大切さを説いた長岡藩大参事・小林虎三郎の「米百俵」の精神であり、長岡市は人材育成のまちとして、教育に力を入れています。主に文学座の演出家や俳優による、演劇的手法によるコミュニケーションに特化した子どもから大人を対象としたワークショップにより、他者の心情を思いやる重要性を学んだり、「0歳からのコンサート」の実施により、子育てに悩む世代や「1日限りの吹奏楽部」の実施では、ブランクや楽器の個人活動で仲間を求め方を集め、新たなコミュニティや仲間づくりに寄与することができた。東京フィルによる「コミュニティコンサート」では、劇場に足を運べない遠方の地域に出かけ、トップレベルの演奏を届けました。コロナ禍で外出を控えた高齢者も多く、芸術による癒しを提供することができ、社会的な役割に貢献することができた。駅前施設で実施した「入船亭扇辰独演会」も駅前という抜群の立地を生かした事業で路線バスが多く、高齢者が集まりやすいという観点から、大変好評を得ており、公演終了後に軽く飲食へという駅前商店街の活性化にも一役買っている。このように、劇場としての社会的役割（劇場を拠点に地域へ芸術を届ける）や経済的貢献なども事業の目的として考えながら組み立てを行った。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業 目標①】賑わいの拠点施設として、新しい鑑賞者を取り込むことを目標とし、当ホールに初めて芸術鑑賞に訪れた来場者 10%増を達成させる。

【指標 ①】来場者へのアンケート調査で初めてリリックホールに芸術鑑賞に訪れた来場者数を 10%増に設定

【実績 ①】来場者へのアンケート調査で初めてリリックホールに芸術鑑賞に訪れた来場者数は、年間来場者の 15.6%の方が当ホールを初めて訪れたと回答。(達成)

入場者数はコロナ以前と比較すると減少していますが、目標を大きく達成することができました。今年度の企画が幅広い世代に受け入れられたものと推測します。

【公演事業 目標②】文化創造の拠点施設として、市民参加型事業を実施する中で参加者の参加満足度（充実度）80%を達成させる。

【指標 ②】当該事業の参加者へのアンケート調査で事業内容への参加満足度（充実度）を 80%に設定

【実績 ②】当該事業の参加者へのアンケート結果で「大変よかった」、「良かった」と回答した人が全体の 93%となった。(達成)

当該事業の一つ「コーラス・フェスティバル」は、地域の合唱団体が当ホールを会場に一堂に会する事業でコロナ禍で最も影響を受けた合唱分野で、これまで 2 年連続で中止となっていたが、どのような形でも開催しようと、実行委員と協議を重ねて実施したものです。感染対策を徹底し、3 年ぶりの事業開催に評価が高かった。

【人材養成事業 目標①】ジュニア育成事業における参加者の次年度への継続参加率 70%を達成させる。

【指標 ①】当該事業における参加者の次年度への継続参加率 70%に設定

【実績 ①】当該事業における参加者の次年度への継続参加率は「事業番号 3」では 88%、「事業番号 4」では 85%、「事業番号 5」では 71.40%となった。(達成)

該当する事業において、参加者の次年度への参加率は、いずれも目標を上回った。新型コロナウイルスの影響が和らぎ、継続して芸術文化を学びたいと考える児童、生徒、保護者が増えてきたと考えている。

【人材養成事業 目標②】事業参加者における参加満足度（充実度）80%を達成させる。

【指標 ②】当該事業の参加者へのアンケート調査で事業内容への参加満足度（充実度）を 80%に設定

【実績 ②】当該事業の参加者へのアンケート調査（達成）でいずれの事業も 90%以上の回答を得た。

該当する事業において、参加者の次年度への参加率は、いずれも目標を上回った。新型コロナウイルスの影響が和らぎ、継続して芸術文化を学びたいと考える児童、生徒、保護者が増えてきたと考えている。

【普及啓発事業 目標①】当該事業を体験した参加者が事業を通じて、芸術文化事業の継続体験を希望する割合 70%を実現させる。

【指標 ①】参加者へのアンケート調査で芸術文化事業の継続体験を希望する割合を 70%に設定

【実績 ①】参加者へのアンケート調査で低い数字で 83%、高い数字で 100%、平均で 95.4%の方が継続体験を希望した。(達成)

全普及啓発事業を対象にアンケート調査による設問を設けたところ、高い割合で継続体験を希望すると回答している。これは、事業を体験した参加者が内容に十分に満足し、次回への期待感から回答したものと推測できるため、うれしい結果となった。実際に、学校アウトリーチ事業を体験した児童が音楽にクラシック音楽に興味を持ち、コンサートに来場するケースも増えている。

【普及啓発事業 目標②】当該事業を体験した参加者が事業を通じて、学校の授業以外でも芸術文化を学びたいと希望する割合 70%を実現させる。

【指標 ②】アンケート調査で学校の授業以外でも芸術文化を学びたいと希望する割合を 70%に設定

【実績 ②】事業番号 3「地元アーティスト 学校アウトリーチ」の参加者にアンケート調査による設問を設けたところ、76%の児童・生徒が、学校以外でも芸術文化を体験してみたいと回答している。(達成)

目標①と同様に、アウトリーチコンサートの内容が子どもたちに受け入れられ、一定の成果を得られたものと推測できる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

助成対象事業における事業期間については、公演事業で 23 日間、人材養成事業で 151 日間、普及啓発事業で 37 日間を要し、合計 211 日間の期間において、事業を展開した。これは、公演のリハーサルや人材育成事業による練習日等をカウントしている数字ではあるが、楽器、合唱、演劇、ミュージカルなど、様々な参加型事業と学校や地域へのアウトリーチ事業により、芸術文化活動の持つ魅力を地域に還元することができた。新型コロナウイルスによる中止や延期は 0 件で順調に事業が進行したものと考えている。

【公演事業】

一部の事業において、出演者の家庭の事情などにより開催延期があったが、ほぼ予定どおり事業を展開できた。ジャンルが偏らないように、地域のニーズをアンケート等で分析を行い、地域文化の拠点施設としての役割も念頭に置きながら、幅広いジャンルの公演を実施した。

【人材養成事業】

一部の事業において、学校でのウイルス感染による学級閉鎖でメンバーが揃わないなどの時期もあったが、参加者の練習参加率は高く、助成金の補助により、魅力的な「学びの場」を提供することができた。

【普及啓発事業】

芸術文化に馴染みのない市民でも、参加しやすい形態を模索し、初心者でもわかりやすい解説を交えた公演や、気軽に参加できるホワイエコンサート、周囲を気にせずに参加可能な 0 歳からのコンサートなどを通じて、芸術に触れることの楽しさを伝えることや、裾野の拡大を図ることを意識して事業を展開した。

長岡市の米百俵の逸話に基づく、人材育成のまちとして、こどもたちがより多くの学びの場を体験できるよう、「未来へつなぐ新しい米百俵」＝「未来への問いをつくる場」へと当ホールを拠点に事業を展開することができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業費（総支出）に関しては、補助金要望時の計上として公演事業／33,915(千円)、人材養成事業／6,930(千円)、普及啓発事業／10,062(千円)で、助成対象事業経費として合計 50,907(千円)を見込んでいた。

最終的な決算事業費（総支出）は、公演事業／35,851(千円)、人材養成事業／7,025(千円)、普及啓発事業／11,276(千円)となり、合計 54,152(千円)となった。概ね当初の計画のとおり予算を執行できたと考えている。

収入（総収入）に関しては、補助金要望時の計上として公演事業／19,086(千円)、人材養成事業／1,075(千円)、普及啓発事業／900(千円)で、助成対象事業収入として合計 21,061(千円)を見込んでいた。

最終的な決算収入（総収入）は、公演事業／13,495(千円)、人材養成事業／1,300(千円)、普及啓発事業／586(千円)となり、合計 15,381(千円)となった。要望時と比較して 5,680(千円)の減収となった。コロナウイルスの影響による入場者数の減少が続いていることが主な理由として挙げられる。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

市民はより身近な場所で、文化活動に参加し、文化を鑑賞し、創造することができることを期待しています。身近な場所で文化が育つことは、文化を大切に作る心を育み、地域における文化の振興にもつながるものと考えています。そのような環境の中、令和4年度は、長期化する新型コロナウイルス感染症への対策に徹底して取り組みながらも、市民に、芸術文化が心の安らぎと活力をもたらすよう、市民文化活動のさらなる活性化と、多彩な公演の提供による芸術文化の楽しみを拡げる事業を実施しました。

市民合唱団体による実行委員会と協働で開催している「リリックコーラスフェスティバル」は3年ぶりの公演となり、細やかに感染対策に気を配りながらも、多くの参加者が歌うことの楽しさを再認識できました。

特に重点を置いて取り組んできた、青少年を中心とした人材育成事業については、継続実施している地元アーティストによる「学校アウトリーチ」に加え、子どもたちがコミュニケーション能力を高めるための「小学校向け演劇体験教室（講師／文学座／植田真介、ほか）」や、「子ども向け1day おしばい体験！（講師：文学座／高橋ひろし、ほか）」、東京フィルの楽団員が中学校吹奏楽部を訪問指導する楽器ワークショップなど、多彩な新規事業を精力的に実施しました。プロとの関わりによる本物の体験は、子どもたちの感動と心の成長を育み、技術の向上に加え、将来を視野に入れた芸術への向き合い方にも大きな影響をもたらしました。

公演事業につきましては、幼少より芸術大国ロシアで研鑽を積んだピアニスト・松田華音や、莊村清志ら日本を代表する4人のギタリスト、若手ヴァイオリン奏者の世界的登竜門「ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクール」2位の受賞歴を誇る小林美樹、日本を代表するコンクールの一つ「くまもと全国邦楽コンクール」で史上最年少の16歳で最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞して以降、注目を集める箏奏者のLEOと芸術選奨文部科学大臣新人賞（2021年度）受賞の三味線奏者の本條秀慈郎の初共演となる和楽器コンサートなど、施設の特性に合わせた注目度の高い公演を開催し、市民にトップクラスの芸術の鑑賞機会を提供しました。

「人材育成事業」では、文学座演劇活性化事業として、文学座演出部の五戸真理恵を講師に迎えて、演劇体験ワークショップを実施。自分が演じることはもとより、相手役がそれをどう感じたかを全員で探求した。講師と充分に交流しながら、活発な意見交換ができ好評を得た。「仲道郁代プロデュース『三善晃記念 響き合うピアノ』」では、ピアノ演奏の技能向上のみではなく、音楽による社会に資する人材を育成するための講座やワークショップなども併設して開催し、受講者の意識改革を促した。この事業への参加をきっかけに自分の進路を見つめ直し、見事に音楽大学への合格を勝ち取るなど、参加者から嬉しい報告を受けています。

「普及啓発事業」では、「東京フィルコミュニティコンサート」として、コミュニティセンターなどを会場に広域の8か所で8公演を開催しました。各会場での集客や会場準備などをそれぞれの地域の住民と連携して行っており、会場に応じた曲目を首席奏者を中心に演奏し、クラシック音楽の垣根をできるだけ低くしながら相互交流を図りました。新型コロナウイルスの影響が残る中、地域の方との交流もあり、涙する人も見られるなど成果をあげております。

このように、地域住民や関係機関等と連携して市民の幅広いニーズに応え、地域の芸術文化への関心を喚起し、同時に未来を見据えた人材育成に努めた事業を実施しました。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

○地域拠点事業と地元アーティストの活用

東京フィルハーモニー交響楽団や劇団文学座のネットワークやノウハウの活用に加え、地元アーティストの協力により、地域に根付いた公演やワークショップを開催。地域のコミュニティセンターや学校へアーティストと出向き、積極的に交流し、教育現場や地域の課題解決に貢献した。学校アウトリーチコンサートでは、地元で活躍するアーティストを起用し、子供たちに身近に音楽活動を行っている目標となるような人材を講師としている。本来は体験型の内容を計画していたが、コロナ禍であるため、鑑賞型のコンサートスタイルでプログラムを実施しました。より音楽に親しみを持てるように工夫をし、会場については、音楽室などの普段、音楽に慣れ親しんでいる同じ場所でプロの演奏を聴くことで、その違いを演出している。学校アウトリーチ事業を経験し、興味をもった児童・生徒が、当ホールのジュニア育成事業に参加するなどの相乗効果を生みだしました。

○市民協働事業の推進

地域で活動しているアーティストや長岡市出身のアーティストとのリレーションシップを活用し、質の高い事業を展開することができた。長岡市内で音楽を学んでいる小学生から高校生が日頃の練習の成果を発表する「リックジュニアフェスティバル」も、新たに初めての「キッズステージ」を開始。小学3年生までの、演奏経験が3年未満の子どもたちを対象に発表の機会を与え、本公演を鑑賞いただくことで、未来の参加者として、当事業に戻ってきていただけるような種まきを行いました。当事業は地域の子どもたちにとっては目標となる催しになっており、また、演奏ジャンルの異なる子ども同士の交流により、新しい発見や互いに刺激を受けることで成長の場となっている。運営には、地元の音楽指導者で構成される実行委員会の協力があり、場内係や受付、当日の進行を受け持ち、市民の手による文化発信事業の先進事例となっている。

○ジュニア育成事業の推進

未来を担うジュニア世代の情操と人材育成のために、芸術文化に親しむ場と技術向上の機会を提供する。当ホールでは、合唱、ミュージカル、弦楽器の3つのジャンルで事業を展開している。それぞれの分野で地元の講師と連携を図りながら、長岡市内外の催しに参加するなど実績を重ねてきた。特に弦楽器の分野では、令和元年より長岡市に誘致した「アフィニス夏の音楽祭」（日本で唯一のセミナー音楽祭）の開催により、市民のクラシック音楽に対する意識付けを強化したいねらいもあり、重要な役割を担っています。令和4年度は、新規の参加希望者が10名以上増えるなど、注目度も増してきております。次年度の同音楽祭で、世界的な演奏家や国内屈指の演奏家と共演することを視野に入れて活動を継続しています。

○幅広い鑑賞事業

乳幼児から高齢者、障害を持った人や外国人等、さまざまな人がストレスなく芸術文化を楽しみながら鑑賞できる環境を整えると共に、家庭環境や経済的にホールへ来ることができない人を支援するための青少年招待事業として、主催する公演に市内の小学校4年生から高校生まで（招待者数/10公演97人）の無料招待を行い、希望の公演を楽しんでもらうことができた。また東京フィルハーモニー交響楽団の演奏会では、地元の長岡市米百俵財団との連携により、親子を対象に鑑賞支援（チケット代金の補助）を行い、鑑賞者の裾野の拡大を図ると共に、若い年齢層の取り込みに努めました。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

(職員の雇用状況)

- ・ 正規職員 10 名と長岡市派遣職員 3 名の計 13 名について、全職員 29 名に対する割合は 44.8%となっている。正規職員については、勤続 20 年 3 名など 10 年以上勤続する職員が 6 名となっており、臨時職員については、平成 30 年 7 月の長岡市立劇場リニューアルオープンに伴って新規雇用した職員や近年に新規採用した任期付き職員が多く、平均勤続年数が短くなっている。

(人材の育成状況)

- ・ 勤続経験を積むことにより、事業運営や施設管理のノウハウの蓄積に努めている。また、総務課、事業課、長岡市立劇場の 3 課の異動を経験することにより、組織全体の業務把握ができる人材を育成している。
- ・ 各種派遣研修（顧客満足を高めるマナー研修、アートマネジメント研修会等）を継続実施している。

(今後の計画)

- ・ 経験の浅い職員については、業務別の職場内研修を実施することで、組織全体の業務把握を進めていく。
- ・ 各種派遣研修は、正規職員の熟練を図るため、専門的な研修への派遣を含め継続実施していく。
- ・ アートマネジメント研修をホール内で実施し、スタッフの意識向上と運営方針の浸透を図っていく。
- ・ 業務ごとに主任・副任を設け、責任をもって継続実施することにより、モチベーションの向上と実施スキルの継承を図っていく。
- ・ 人事考課による個人の特性に応じた育成を行うほか、正規職員については業績を確認して定期昇給を行っていく。

(劇場・音楽堂館のネットワークの形成)

- ・ 事業の組み立てについては、県内の他の文化施設への情報収集を行うことにより、同種の企画が同時期に被らないように、配慮している。

(財源の確保)

- ・ 協賛金については、年によって協賛依頼を行う公演の数異なるため、協賛者数や協賛金額について目立った傾向は見られない。コロナ禍による業績の悪化を理由に協賛金額の減額も見られるが、当財団事業への継続的な支援のスタイルは変わらず、企業協賛が定着してきていることが伺える。

(PDCAのサイクル)

- ・ 事業の実施や利用者アンケートにより、事業によって期待する成果が得られたかどうか、市民がサービスの内容や質に満足しているかどうか、円滑な運営が行われているかどうか、経営の効率化が図られているかどうか、といった観点・視点から点検を行い改善を図っている。その過程を通して、課題を把握し、具体的な改善策を検討していくことで機能強化につなげており、組織として向上してきている。定期的に運営会議を設け、課を越えて、情報共有や問題解決に努めている。